

伊勢崎市は特例校として、英語教育の充実に力を入れて取り組んでいます。英語科の新設。全学年週2時間の授業を実施しています。

## 1 令和5年度の学校評価におけるアンケート結果

- ① 教職員へのアンケートの質問「児童が、体験的に英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを感じることができようになっていますか」に対して、7月と12月の「している」「どちらかといえばしている」の割合はどちらも100%でした。
- ② 児童へのアンケートの質問「英語の授業では、英語の発音やリズムになれ、友だちと英語で伝え合うことが楽しい」に対して、7月と12月の「楽しい」「どちらかといえば楽しい」の割合はどちらも88%でした。
- ③ 児童の「楽しい」「どちらかといえば楽しい」の割合を80%以上にするという学校の目標は達成されています。

## 2 学校評価アンケート結果を受けての指導方針

- ① 伊勢崎市の共通プログラムに基づき、イングリッシュポーターやALTを効果的に活用し、担任が主導して達成感や成就感を感じることができる指導の工夫に努めていきます。
- ② 場面設定の工夫をし、ESやALTによる英語の音声に直接触れたり、デジタル教材等で視覚的支援を取り入れたりして児童が相手意識をもてるようにします。

## 3 令和6年度の編成方針等

- ① 市共通の展開例を有効活用するとともに、外国語指導助手(ALT)やイングリッシュポーターのネイティブな音声や英語表現に多く触れさせながら、英語でコミュニケーションをする楽しさや自分の伝えたい内容が表現できたという達成感・成就感が得られる指導の工夫に努めます。
- ② 児童が英語を用いてコミュニケーションを図り、その楽しさを味わえる学習活動を図ります。
- ③ 自分の言葉で伝えたいことを表現させ、相手に伝えることができたという達成感を持たせられるよう、児童の興味関心を生かした内容のコミュニケーション活動を工夫します。
- ④ 児童が外国の文化や生活に興味・関心が持てるよう英語室内を中心に環境整備を行います。
- ⑤ モジュールプログラム実施に伴い、指導方法の周知と担任の英語力向上に努めます。